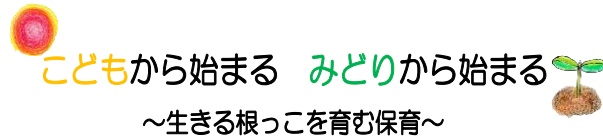


幼保連携型認定こども園宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園



## 「まこと先生だより 第23号」

新年あけましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします！

園長 有嶋誠

新年の候 保護者の皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、1月9日に新学期が始まり、明るく元気な園児がいっぱいの幼稚園生活が再びスタートいたしました。全国も本県もコロナの感染拡大が続く中の新学期のスタートになりましたが、安全で安心な保育環境を引き続き提供してまいります。

今学期は1月28日土曜日に「発表会」、2月25日土曜日に「お別れ親子遠足」、3月3日金曜日に「ひなまつり会」、3月21日火曜日(祝日)に「第6回卒園式」と大きな行事を控えております。保護者の皆様方のご理解とご協力を得て行事を充実させたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

ところで、令和5年4月から園改革の一環としまして「以上児への異年齢保育」を開始します。12月に2回ほど保護者説明会を開催いたしました。説明会に来ることが出来なかった保護者も多くいらっしゃいましたので、今号から数回にわたり異年齢保育クラス導入の思いや今後の方向性、課題等について、当日の説明会で使用したパワポをもとにご説明いたします。

以上児への異年齢保育クラス導入の説明(令和5年4月開始)

### 1 21世紀型教育・保育のための保育環境の改善

<p><b>教育・保育方針</b></p> <p>◎21世紀型教育・保育 教師の「させる」→子どもが「する」</p> <p>◎今年度のキャッチコピー</p> <p>こどもから始まる みどりから始まる ～生きる根っこを育む保育～</p>	<p><b>保育環境改善プログラム</b></p> <p>&lt;物的環境の改善&gt; 保育室の環境改善 知育玩具(ヨーロッパ製)の導入 読み継がれる絵本の購入</p> <p>&lt;人的環境の改善&gt; → 異年齢保育導入 子どもの主体的な活動を重視する 子どもが「する」教育・保育への転換</p>
---	--

<図1>

<図2>

<図1>本園では、今年度から姉妹園のみどり幼稚園と「21世紀型教育・保育」の導入に向けて「こどもから始まる みどりから始まる～生きる根っこを育む保育～」をキャッチコピーに保育環境の改善に取り組んでいます。

<図2>保育環境の改善には、「物的環境の改善」と「人的環境の改善」があります。物的環境の改善については、昨年4月から「保育環境改善プログラム」を導入して、保育室や知育玩具、絵本などの改善を進めています。今年4月からは人的環境の改善を目指し、教師の「させる」教育・保育から子どもが「する」教育・保育への転換を進めます。そのため、教師による教育・保育に加えて、子ども同士で学び合ったり教え合ったりする場面をより多く設定するため「以上児への異年齢保育」を導入いたします。

## 2 こどもたちの将来と異年齢保育

子どもたちの将来	中央教育審議会のまとめ
○就学前教育 ↓	○就学前教育・保育をめぐる現状と課題 (集団活動や異年齢交流の機会の不足)
○小学校 : 同年齢 (クラス)	少子化が進行し、子どもの数やきょうだいの数も減少する中で、乳幼児の成長・発達にとって大切な、 <b>集団の中で同年齢児あるいは異年齢児と共に育つ体験</b> を十分に得ることが困難な状況になっている。
○中学校 : 同年齢 (クラス)	
○高等学校 : 同年齢 (クラス)	
○大学 : 同年齢 (クラス)	
○社会 : 異年齢 (社会)	

<図3>

<図4>

<図3>子どもたちの卒園後は、小学校から大学まで基本的に同年齢クラスで過ごすこととなります。そして、最終学校卒業後は初めての異年齢社会に飛び込むこととなります。

<図4>中央教育審議会では、少子化が進行し「集団の中で同年齢児あるいは異年齢児と共に育つ体験」を得ることが困難な時代であり、同年齢や異年齢で育つ体験が、乳幼児の成長・発達に大切であると述べています。当園ではこれまで毎年9月より「ドリーミングデー」を数回計画して、3歳以上児の異年齢交流を行ってきましたが、今年度はコロナの関係で実施を控えています。ドリーミングデーは異年齢による交流が中心であり、意図的・計画的な異年齢保育までは至っておりませんでした。

### 3 異年齢保育導入の思い「1・2」

**異年齢保育導入の思い 1**

- **小学校の経験** (異年齢による教育活動)
  - 縦割り清掃 (小1～小6)
  - 委員会活動 (小5・小6)
  - クラブ活動 (小4～小6)
- **中学校の経験** (異年齢による教育活動)
  - 委員会活動 (中1～中3) **学び合い**
  - 部活動 (中1～中3) **教え合い**

<図5>

**異年齢保育導入の思い 2**

- **子どもを取り巻く環境と遊びの変化**
  - 少子化における子どもの状況
    - 出生数の減少 (1・57ショック：1990)
    - 40年前 (2・14) 兄弟数 2～3名
    - 2021 (1・30) 兄弟数 1～2名
    - ※一人っ子家庭の増加
    - ※コロナの影響 (近所の遊び仲間の減少)
  - 昔：異年齢遊び → 今：同年齢遊び

<図6>

<図5> 小・中学校では、ほとんどの時間を同年齢クラスで過ごしますが、ほとんどの小・中学校では縦割り清掃や委員会活動・クラブ活動・部活動など一部の時間を異年齢集団による活動として位置付けています。意図的・計画的に異年齢集団による活動を行うことで年長者と年少者の学び合いや教え合いを経験させています。なお、中学校では異年齢による部活動を通して先輩と後輩の関係が確立されます。

<図6> 少子化の中、子どもたちを取り巻く環境と遊びが大きく変化しています。約40年前にはきょうだいは2～3名でしたが、現在は1～2名となっており、一人っ子家庭が増えているといわれています。また、近所で異年齢の子どもと遊ぶ時間も少なくなっています。つまり、家庭や近所での遊びなども同年齢での活動が中心となり異年齢での活動は減少傾向にあります。

### 4 異年齢クラス保育導入の思い「3」

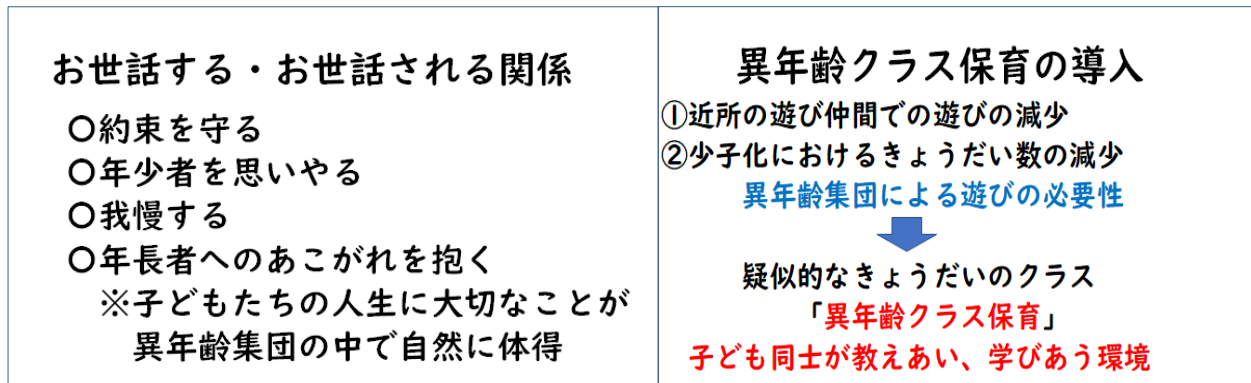
**異年齢保育導入の思い 3**

- **お世話される体験とお世話する体験の減少**
  - <きょうだい・近所の遊び仲間>
    - 年少者が年長者に**お世話される体験**
      - ※年長者をあこがれる心
    - 年長者が年少者に**お世話する体験**
      - ※年少者を思いやる心

<図7>

<図7> 少子化の中、こどもたちは多くの場面を同年齢集団で過ごします。きょうだい数が少ない家庭や近所で異年齢と遊ぶ体験の少ない子どもは、お世話される体験とお世話する体験が不足したまま大人になっていきます。そのため、年長者に憧れる心や年少者を思いやる心が育ちにくくなります。

## 5 当園における異年齢クラス保育の導入



< 図 8 >

< 図 9 >

< 図 8 > 私の子どもの頃は近所での異年齢遊びが多く、その異年齢遊びの中で「約束を守る」などの大切なことを年長者から学んだものです。そして、年長者に憧れ、年少者は年長者から教えていただいたことを自分が年長者になった時に年少者に教えていたように思います。

< 図 9 > 将来の予測困難と思える異年齢社会を生きていく子どもにとって、同年齢体験と異年齢体験はどちらも必要です。しかし、家庭でも近所でも異年齢体験を行うことが難しい時代となっています。そのため、同年齢保育に加えて子ども同士が教え合い学び合う異年齢保育を意図的・計画的に本園で設定していきたいと考えています。

## 6 異年齢保育クラス導入の思い

家庭でのきょうだいの数が減少するとともに近所での異年齢による遊びも減少傾向にあります。また、子どもたちが卒園後に進学する小・中学校でもほとんどの時間を同年齢集団で過ごすことになり、一部の子どもたちは異年齢での遊びや活動を十分に経験しないまま将来の異年齢社会に飛び込んでいくこととなります。また、昔のような年長者と年少者の異年齢交流の機会もほとんどなく、同年齢の集団の中にいて親と教師だけに教えられて育つ子どももいると考えられます。

このような中、国の中央教育審議会は「同年齢児と共に育つ体験」や「異年齢児と共に育つ体験」が乳幼児の成長・発達にとって大切であると述べております。そのためこれからの幼児教育には、同年齢保育を大切にしながらも異年齢保育を意図的・計画的に設定して、親と教師だけでなく異年齢の子ども同士による教え合いや学び合いの場面や時間を取り入れた教育と保育が求められています。

※ 次号では、県内で異年齢保育を行っている先進園の紹介と4月からの本園における以上児の異年齢クラスの体制等についてお知らせいたします。